

ヨハネによる福音書における主観的な真理の回復

聖書：ヨハネ 1:14, 16. 14:16-20, 6. 20:22. 4:10, 14. 6:35, 57. 12:23-24. 3:29-30

I. 主は聖書の中の主観的な真理を回復することを渴望しています——ヨハネ 1:14.

14:16-20. I テモテ 3:15-16 前半. II テモテ 4:22. 3:15-16 :

A. 聖書の中の真理には常に二つの面があります。それは客観的な面と主観的な面です——ローマ 8:34, 10. コロサイ 3:1. 1:27 :

1. 神の救いには二つの面があります。それは最上の衣で表徴される外側の客観的な面と、肥えた子牛で表徴される内側の主観的な面です。わたしたちの客観的な義としてのキリストは、わたしたちの外側の救いであり、わたしたちの主観的な命としてのキリストは、わたしたちの享受のためであって、わたしたちの内側の救いです——ルカ 15:22-24. 参照、ローマ 5:10。

2. すべての客観的な教理は、主観的な経験のためです。客観的なキリストは、「最上の衣」、すなわち神を満足させる義であって、悔い改めた罪人を覆います（エレミヤ 23:6. I コリント 1:30）。また主観的なキリストは、「肥えた子牛」、すなわち豊富なキリストであって（エペソ 3:8）、十字架上で殺され、復活における信者たちの命の供給と享受となります（ヨハネ 10:10. 6:63. 11:25. 12:24. 4:10, 14. 20:22）。

3. わたしたちの客観的な義としてのキリストは、わたしたちが義なる神の要求を満たすことができるようにします。またわたしたちの主観的な義としてのキリストは、わたしたちが勝利を得たキリストの要求を満たすことができるようにします。——詩 45:13-14. ピリピ 3:9. 啓 19:7-9。

4. 義認は「命の」義認です。なぜなら、命は神の救いの目標であるからです。わたしたちと主との、また主の中での主観的で有機的な命の結合は、わたしたちが客観的に義とされた結果です——ローマ 5:10, 17-18. 11:17, 24. ヨハネ 15:4-5. I コリント 6:17。

B. 主観的な真理は、その霊と命に関連があり、またその霊と命で構成されています——ヨハネ 6:63. II コリント 3:6 :

1. その霊と命は、主観的な真理の実質です。こういうわけで、わたしたちはその霊と命を持っていないなら、いかなる主観的な真理も持っていません。

2. わたしたちはその霊と命によって生きるとき、主観的な真理を経験します。このことが召会生活を生み出します——ローマ 8:2, 4. 16:1, 4-5。

II. ヨハネによる福音書は、主観的な真理についての書であり、わたしたちがキリストに対する主観的な経験を持つべきであることを啓示しています——ヨハネ 4:14. 6:57.

20:22 :

A. ヨハネによる福音書は、命としてのキリストに対する主観的な経験についての書です——ヨハネ 1:4. 3:15-16. 10:10. 11:25. 14:6 前半 :

1. 御父は命の源であり、御子は命の具体化であり、その霊は命を与える方です——5:26. 1:4. 6:63。

2. キリストのからだの建造と増し加わりは、命の成長とあふれ流れです——7:37-38. 15:1-8。
 3. 勝利者は、キリストを命の緑の牧場として受け入れる者であり、享受する者であり、分与する者です——1:12-13, 16. 10:9-10. 21:15-17。
 4. 御父は命の源として、源泉であり、御子は命の湧き上がりとして、泉であり、その霊は命の流れ出として、川です。この流れる三一の神は「永遠の命へと至」ります。それはわたしたちが永遠の命の総合計としての新エルサレムとなるということです（命の栄光としての神、命の光としての御父、命の木としての御子、命の川としてのその霊を持っています）——4:14 後半. 啓 21:9 後半-11, 23. 22:1-2, 5。
- B. キリストは神の永遠の言として、ヨハネ第 1 章において啓示されています——ヨハネ 1:1 :
1. キリストは神の言として、神の創造を通して神のために語ります——3 節。
 2. キリストは神の言として、神の幕屋としての肉体と成ることを通して、神のために語ります——14 節。
 3. キリストは神の言として、贖いのための神の小羊となることにおいて、神のために語ります——29 節。
 4. キリストは神の言として、油塗る霊と成ることを通して神のために語ります。彼は油塗る霊と成り、新約のために神の贖われた民を有機的に造り変えて石とならせ、神の家（ベテル）を建造します——32-42, 51 節. 参照、創 28:11-22。
- C. 言は肉体と成って、神を接触することができ、触れることができ、受け入れることができ、経験することができ、入ることができ、享受することができるようにしました。それは彼がご自身をわたしたちの中へと造り込むためです——ヨハネ 1:14. 14:16-17。
- D. キリストが息としてのその霊と成ったのは、わたしたちに彼を呼吸させるためでした。彼が生ける水となったのは、わたしたちに彼を飲ませるためでした。彼が命のパンとなったのは、わたしたちに彼を食べさせるためでした——4:10, 14. 6:32-33, 35, 51, 54-57. 7:37-39. 20:22。
- E. キリストはまことのぶどうの木であり、わたしたちは彼の枝です——15:1-8 :
1. ぶどうの木の命、実質、性質は、枝の命、実質、性質です—— I ヨハネ 5:11-12. II ペテロ 1:4。
 2. 御子はぶどうの木として、神のエコノミーの中心であって、御父のすべての豊富の具体化です。御父は御子を栽培することによって、ご自身を彼のすべての豊富と共にぶどうの木の中へと造り込みます。最終的に、ぶどうの木は枝としての信者たちを通して、団体的に御父を表現します。
- F. キリストの主観的な経験は、実はキリストご自身がわたしたちの中へと入って、わたしたちの命またわたしたちの存在の構成要素となることです——コロサイ 3:4, 10-11。

III. ヨハネによる福音書は、召会に関する主観的な真理を啓示しています :

- A. わたしたちは、主をわたしたちの中へと受け入れた結果、召会の構成要素となりま

す——ヨハネ 12:24. 20:17. 15:4-5. 3:29-30。

B. 主の回復は、キリストを主観的に経験し、召会生活を実行することを回復することです——ガラテヤ 1:15-16. 2:20. 4:19. 1:2 :

1. わたしたちがキリストを主観的に経験することによって生み出された召会は、信者たちの中へと構成し込まれたキリストです——エペソ 3:16-19。
2. 死んで復活したキリストは、わたしたちの中へと造り込まれて、召会、すなわち彼のからだを生み出しました——コロサイ 1:27, 18. 2:19. 3:15。
3. キリストは彼ご自身においてかしらであり、わたしたちの中へと構成し込まれたキリストはからだです——エペソ 1:22-23. 3:17. 4:15-16. コロサイ 1:18, 27. 3:4. 2:19. 3:15。

C. 「召会」という言葉は、ヨハネによる福音書において特に用いられていませんが、召会の存在と召会の構成要素という事実が明確に定義されています。召会は七つの面で言及されています :

1. 召会は、多くの穀粒から構成されています。その穀粒は、キリストの死と復活を通して生み出された多くの信者たちです——ヨハネ 12:23-24。
2. 召会は、主の多くの兄弟たちから構成されています——20:17。
3. 召会は、御父の家です——14:2, 23。
4. 召会は、多くの枝を伴う御子のぶどうの木です——15:5, 7。
5. 召会は、究極的に完成された霊によって生み出されたその霊の新しい子供、新しい人です——16:20-22。
6. 召会は花嫁であり、キリストを花婿としています——3:29-30。
7. 召会は一つの群れであり、キリストを牧者としています——10:14-16。

D. 実際的な召会生活は、わたしたちが主観的な真理を経験することの結果です。わたしたちが主観的な真理を経験するとき、召会は自然に生み出されます——ローマ 8:10-11. 12:4-5. 16:1, 4-5. I コリント 1:9, 30. 15:45 後半. 6:17. 1:2. 12:27。

E. わたしたちがキリストを命として主観的に経験することの結果は、祝宴の家としての召会生活です——ヨハネ 12:1-11 :

1. わたしたちはみな召会生活の中で三つの役割を持つ召会の肢体、すなわち「マルタ・ラザロ・マリア」でなければなりません。
2. 実際の召会生活の中で、主に対する勤勉な奉仕がなされ、主の生ける証しが見られ、主に対する絶対的な愛が注ぎ出されます。これが主のからだの真の表現です。このからだは主を内容とし、主を表現する器です。

